

**乙訓圏域障がい者自立支援協議会**  
**令和元年度 第4回就労支援部会 会議録**

日時 令和2年1月27日(月) 13:30~14:40

場所 乙訓保健所 図書室

出席者 14名

乙訓ひまわり園ワークセンター、こらぼねっと京都就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス、就労移行支援事業所ピオニー、乙訓若竹苑、乙訓やよい福祉会、京都府立向日が丘支援学校(1名)、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、乙訓青年会議所、乙訓保健所福祉室、向日市障がい者支援課(2名)、長岡京市障がい福祉課(1名)、大山崎町福祉課

欠席者 3名

京都府立向日が丘支援学校(1名)、長岡京市商工会、長岡京市障がい福祉課(1名)、

事務局 2名

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第・庁内実習の流れ
- ・乙訓自立支援協議会庁内実習振り返りシート(実習生用)(支援者用)(実習受入れ機関用)
- ・障がい者の就労実習受入の試行のお願い
- ・地域ぐるみの「ひきこもり支援」を考える
- ・障害特性理由に雇い止め「意思疎通できぬ」「差別的」主張食い違い
- ・障がい者がイキイキと働ける場を「農園誘致」で広げていく
- ・障害者と関わるのは面倒?外注ビジネスで露呈した「社会の本音」

議事の流れ

(部会長)

・第4回就労支援部会を始めます。欠席連絡を長岡京市商工会の小玉委員、支援学校の木田委員、長岡京市の田中委員からいただいています。向日市と青年会議所の林委員はこのあと来られると思います。

※資料確認

1 庁内実習のまとめについて

(部会長)

・西山委員からお願いします。

(委員)

・庁内実習が計画通り粛々と進み、残りが乙訓保健所の2月の実習のみです。先週の水曜日時点で回収できたアンケートを、実習生、支援者、支援機関でまとめました。実習生のアンケートは書いていただいたとおりでまとめています。支援者と受け入れ機関の方は、「ですます調」だったのを「だ調」にしたり、できるだけ意味は変えない範囲で要約しています。まだ出ていないところもあるので、集約はできていません。

・庁内実習の流れの表は、ゴシック体の太字部分が昨年度調整役の宮川委員が作成されたものです。これに準じて今年度も進めています。裏は私が今年度作ったもので、就労支援部会に入っていない施設や支援者からも実習希望がある前提でその方に動いていただきやすいようにしたものです。でも就労支援部会に入っていない施設からの申し込みはなかったので活きた感じはありませんでした。

(部会長)

・あと2月の保健所の実習のみですが、傾向としてはどんな課題が残っていると思われますか。

(委員)

・まだ印象でしかお話しできませんが、実習生からは概ね好評で、支援者からも庁内実習の有効性や有意義であると感じて書かれています。ご自身の支援の振り返りの記入も多かったように思います。受入機関にはご努力いただいて作業を切り出して受け入れてくださり、今年度と同等であれば対応は可能だが、これ以上や変更は難しいという内容が今のところは多い印象です。

(部会長)

・前回の部会でも出ていましたが、就労部会に入っている事業所からは応募があるが、それ以上に広がっていないので、相談支援事業所や就労交流会などでのアナウンスをした方がいいとのことでした。そのあたりは課題になってくると感じています。

・就労継続A型B型はそもそも訓練機関なので企業実習に向かうステップアップとして使ってもらえればと思うのですが、乙障協でアナウンスされて井上委員はどんな感じで受け止められましたか。

(委員)

・就労系だけではなく、相談支援機関も加盟しているので各施設にお配りしてお願いしました。「持ち帰って検討します」とのことのでその場ではわからなかったのですが、A型はわかりませんが、B型は外に出て行くような体制があるところや、自主製品の販売体験が自身の事業所でできるところはあまり希望がないのかなという感触です。

(部会長)

・ひまわり園はB型ワークがありますがどうですか。

(委員)

・相談員の方からもご家族に連絡されましたが、今はあまり希望されるところはなかったと思います。

(部会長)

・今後はどうですか。力的に仕事ができなくて、庁内実習を利用して評価を受けて、次に企業実習をされるような方はおられないですか。

(委員)

・今回、庁内実習をしたあとにつながっていくことなど伝えていないので、将来的に就労を希望される方にも話をしていきたいと思っています。

(部会長)

・実習の受け入れ機関から、今年度と同等なら来年度も可能とのことですが、実施していただいた2市1町、乙訓保健所からは何かご意見ありますか。

(委員)

・長岡京市は、1月14日から17日まで4日間2名を受け入れ、障がい福祉課以外の仕事として、保育所関係の部署で就労証明書や給食費徴収の收受印を押したり並べ替え作業をしていただきました。担当部署から「助かった」と話もありました。来年度以降どうなるかはありますが、同じ作業であれば受け入れをお願いできると思います。

(委員)

・保健所は福祉室や他の部署もかなり個人情報を取り扱うのでなかなか事務室で作業ができません。本来なら身近で作業していただきたいのですが、別室という環境での対応になります。ご本人もその方が気は楽かなという点もあります。個人情報を扱わない事務となると単純作業になってしまいますが、とっかかりとしてそういった形で来年度も同じ作業でしたら提供はできるかと思っています。

・また、保健所に来てやっていただくだけではなく、今回事前に練習準備して来られましたので、それも含めて体験のひとつになり良かったと思います。

(部会長)

・教育局でもあわせてさせていただいて、「人数を増やしてできるよ」、「知らなかったので声をかけてもらってよかった」とのことでした。

(委員)

・支援学校なので受けてもらえる可能性は大きいかと思って相談させていただきました。広がって良かったと思います。

(部会長)

・各市町から庁内実習の目的について出ているのを耳にしたので、文章を配布しています。この実習試行段階の1年目にこの案内を部会から出して実習を受け入れていただいたという中身になっています。ここに目的が書かれていると理解していますので、各市町でこういう文章が最初に出ているとお伝えてください。

(副部会長)

・運営委員会で、受ける側が実習中にどこまで実習生に関わるのがいいのか、例えば、質問される方が日頃座っておられる席まで行くのか、それとも受け入れ先の方が何回か気遣って行くべきなのかを大まかでもいいのである程度決めておいた方が認識を持ちやすいのではという意見をいただきました。行政は実際に受けていただいているかがなものでしょうか。

(委員)

・長岡京市は、最初に基本的な説明をして1時間に1回程度は見に行くようにして、つきっきりではなく何かわからないことがあれば聞きに来てくださいねとしました。本人たちもわからなかったり作業が終わったら来ていただいたのでスムーズにいったと思います。

(委員)

・向日市も、「この作業が終わったら次聞きに来てください」とお伝えして、職員の方も察して次を言わずに、自分できちんと言ってもらってそれを聞いて動くように協力をお願いして、その形でできたと思います。

(委員)

・大山崎町も一通り説明して質問があれば来てくださいという形で私は執務室の方に戻りましたので実習生が必要に応じて来られたという流れでした。実習生しだいという気もします。事前顔合わせの時に取り決めみたいな形で話をしたらいいと思います。

(委員)

・保健所は、特別につきっきりということではなくて、顔合わせの時にどういった実習生か雰囲気などを把握して、こういった方なら午前中1回ぐらい顔を出せばいいか1時間ごとかなどという形でやっています。去年今年と自分でできる方だとわかりましたので、2時間に1回ぐらい顔を出して何かあったら事務室の席にいますということで、いなかったら周りの人ということを経前の顔合わせの時に話しまして心配はなかったと思います。

(部会長)

・例えばB型での実習でも同じで、最初にどんな作業するのか説明してもらって何かあったら聞きにくいという対応です。それでいいですか。

(副部会長)

・はい、そのようにさせていただきます。  
・もう1点ですが、「受け入れの試行のお願い」を見ていると、「実習の受入が具体的な対応につながっている」とあります。最初の試行の段階の時に庁内実習を受けられた方々はその後たぶんその先のステップに進んでらっしゃるかと思います。個人情報等もあるので可能な限りで、庁内実習を受けられた方が実習を受けたことによって就職されたのか、自分の道がうまく見つけられたかなどであると、必要性の確認もできるのではと思うのですがいかがでしょうか。

(委員)

・追跡のフォローもいると思いますが、ここに体験に来られたから一足飛びにレベルがあがるとも思っていないし、その後どういうところに行かれたなどの情報を聞かれた時に答えられるようにもっていただければと思います。

(部会長)

・支援学校では、今回高等部1年生1回目の実習で長岡京市と保健所にお世話になったのですが、すぐに企業実習を1週間するのが難しい生徒だったので、本当にスモールステップで、企業ではない、福祉ではない、役所でお世話になって、感触としてはがんばれたというか、ちょっと自信をもって学校にもどってきたと思っているので、そういう形で今後も使わせていただけたらありがたいなと思っています。

(委員)

・少し自信をつけていただくぐらいでいいのかなと思います。そして今度の違うチャレンジにいかせるかと思っています。

(副部会長)

・なぜ行政で実習をやらなければならないのか、目的が不明確だという意見が出ていて、行政が戸惑って受入れを試行錯誤されている印象を受けています。目的が明確でない他課への斡旋もしにくいという意見もあって、今聞いている中で、スモールステップであったりや実習が経験のひとつとなっているという理解で持ち帰った時の説明として今後も実習を受けていただくことは大丈夫なのではないでしょうか。

(委員)

・自分の所管しているところでは大丈夫だと思います。他に広げる時にこういったことでという理屈は整理した方が頼みにいきやすいということで今回は意見が出たと思います。

・受け入れる側の意識がどこまでなのかというのがあります。今回教育局は、どういうことを詳しく聞くまではなかなかで、3回ぐらい協議させてもらって、理解して最終的には積極的に受け入れていただいたという課程があります。他部局に持って行くのはハードルが高いと私は感じました。こういった経験を積んでもらう方がいいのは心ではわかっているが仕事として受け入れるのはまた違うレベルです。内部の調整などもあるのかなと思います。二つ返事では難しいです。

(部会長)

・実習生が広がっていかない状況なので、実習の場を広げてもそこにいく人がいないというのも出てくると思います。まずは乙訓の中で広げて実習生が増えてきた段階で次のことを考えていく時期になるかと思っています。

・お世話になる日数を1日ではなく、3日、4日と広げていただけると使いやすく実習としての体験がしっかりできるのではと思うので、他部局に広げるのは少し待ちながら日数の確保がもしできるのであればお願いしたいと思います。

(委員)

・日数の確保というのは違う人が同じ作業なのですか。4日間も同じ作業はどうなのかな、単純で難しい作業ではないのでそれを3日4日とやってみてご本人にとってどうなのかなと不安に思います。

(部会長)

・実習生にもよりますが、軽度の子たちはほぼ5日間実習に行くので、福祉のB型という生徒についても教師の方から、2、3日ではわからないのもう少しやってほしいという要望が今あがってきています。

(副部会長)

・複数日行くことによって、その緊張した環境を何日続けられるのか耐性をみる意味で単純作業でも複数日あった方がいい場合もあります。人によりけりのところは多少あるのかもしれませんが。内容を熟知するのに4日必要ということではないと思います。

(部会長)

・色々意見が出ましたので今年のまとめに反映させます。

(副部会長)

・調整役を今回はピオニーがしてくださいましたが、業務の調整方法や、実習に送り出す機関が担当した方がいいのかなど含めて何かご意見や感想、提案があればお願いします。

(委員)

・調整役をする中で、行政の思われていることや他施設の事情などわかる部分があったので、この役割は固定ではなく回り持ちがいいと思います。色々な人が経験してそれぞれ気づくことで庁内実習はよくなっていくと思います。施設と支援学校の違いは、支援学校は日程が年度で決まっているので早めに調整したいとおっしゃいますし、相談機関や就労移行だとメンバーの入れ替わりがいつあるかわからないのでできるだけ遅く決めてほしいと言われます。支援学校と施設が同じ実習に行くとなるとどちらをどう立てるか、そういう調整が大変で今後の課題だと思います。それぞれの利益が違います。今お話しになった日数でも1日だから行きたいところもあれば4日というところもあります。

(部会長)

・調整役は回り持ちがいいと思いますが、ぱっと変わるとわからないので今年みたいに今年やった方は次の方のサブにまわるといいかと思います。

(委員)

・異動があるので年度が変わると確約はできないところはあります。

(副部会長)

・西山委員が改正された実習の流れについてですが、今読んでいただくとなると時間も取るので、気づいたことがあればとりまとめさせていただく方がよろしいですか。

(委員)

・今日、青戸委員から流れをとわれたので、大急ぎでコピーしただけなのでどのように扱うかはご判断ください。

(部会長)

・次の部会ではまとめの確認になるので、気づいたことがあれば西山委員にメールでもいいので連絡してください。

## 2 就労交流会の報告について

(部会長)

・乙訓の就労交流会の報告をアイリスの青戸委員からお願いします。

(副部会長)

・12月16日に乙訓就労交流会がありました。前回の部会の時に、2月に予定されている一般の方向けの合同面接会で何か就労交流会から障がい者雇用に向けてのPRの機会を持たせてもらってちらしを作ろうという話をしましたが、長岡京市商工会から今年度、合同面接会は行わないと決定したと連絡がありました。来年以降もしないということではなく例年行っているものなので、また機会があれば、どのぐらい障がい者雇用にむけてのPRの時間がいただけるかは検討課題だが、協力していくのは可能というご意見をいただいています。合同面接会がないかわりに、2月21日商工会の部会で、会議のうちの20分だけ、集まってきた企業に障がい者雇用に向けた話をする時間を乙訓交流会にいただくことになりました。

・乙訓交流会も来年度に向けての取り組みを検討しています。企業の方に障がい者施設見学に行ってください。OPEN DAYは、青年会議所の方から「今回ははじめてだったからお声かけできないところもあったが継続は力になるので、継続されていたら行こうと思う方もいるので続けてほしい」と意見も前部会でいただいたので、その他のさまざまな取り組みを行っていきたいと思っています。

・交流会には同友会の方も参加されて、今年度はお顔合わせと連携を築いて接点をもつことがメインでしたが、連携の発展をしていけたらいいなという話をしていました。

・2月に京都新聞社である就労支援のシンポジウムで交流会に参加していただいている同友会の方と夏川先生に発表をしていただくことになっています。

(部会長)

・今年、就労交流会が発足し、OPEN DAYの実施、向日市まつりへの参加で、障がい者についての理解を深めようというところから動き始めました。同友会では、アイリスから1名、支援学校の卒業生が1名、生徒が今1名実習中で計3名企業実習の場を設けていただいて雇用に結びつきそうだというところ です。

・2月15日のシンポジウムについては、丸太町烏丸の京都新聞社で、ハチドリとCOCOネットと乙訓就労交流会の3本立てのパネルディスカッションということで、乙訓交流会から株式会社白井さんの白井代表取締役と私が出席することになっています。

・何かご質問等ありますでしょうか。

### 3 本年度の活動のまとめと来年度の取り組みについて

(部会長)

・年度のまとめをしていかないといけないのですが、次回の部会で活動報告をみなさんに見ていただいて意見をいただくことになります。その中の庁内実習については西山委員を中心に青戸委員といっしょに作成をお願いしたいと思います。

・来年度の取り組みについてです。今年度、乙訓に就労交流会ができて中小企業家同友会の方を中心に、長岡京市、向日市、大山崎町の商工会の事務局長の方々が参加されて就労についての軸足がそちらの方に移ってきていると考えています。そのためこの就労支援部会は、庁内実習の取り組みを中心に就労交流会との連携と新たな課題について取り組む場として今後やっていくことになると思います。そうなる部会ではなく来年度以降はプロジェクトとして活動取り組みをしていくのはどうかと考えているのですがそれについてご意見いただけたらありがたいです。

(委員)

・プロジェクトというのは何がプロジェクトなのですか。

(部会長)

・今は就労部会ですが、自立支援協議会の中のプロジェクトの扱いで、そのプロジェクトの中で庁内実習を中心として新たに出てくる課題などに取り組む中身になるかと思っています。乙訓就労交流会も雇用に向けて動き出しているのですここの連携しつつということになります。自立支援協議会の名前がないと交流会も動きにくいところがあるのでプロジェクトとして残してはと思っているのですが。

(委員)

・交流会もプロジェクトですか。

(部会長)

・交流会は別組織です。

(副部会長)

・元々部会として、いろんな支援者福祉、行政、企業で障がい者雇用に向けたネットワークづくりをすることが目的の一つでした。その目的が就労交流会に移って果たされたという考え方ができると思います。ただ、この間やってきている庁内実習は残っていくだろうということで、それを実施するためだけのプロジェクトを1個残した方がいいのか、それは部会ではなくということで整理をしてもいいのかなという話にはなっていました。

(委員)

・そもそもこの就労部会が出来た時にはネットワークを作るといふのと他どんな目的がありましたか。

(部会長)

・乙訓の就労に関してのネットワークを企業と作るという中で、1年目、企業の雇用促進の部分が立ち後れました。福祉だけでいろいろここでやっても話が前に進まないの、企業を入れていかないと雇

用促進がそもそも進みませんでした。2年目、中小企業家同友会の方に来ていただいて講演をお願いしたりして、そこの結びつきの中で今年就労の交流会ができました。そちらの方へ2市1町の商工会の事務局、中小企業家同友会乙訓支部の方も来られて、就労や定着に向けての話はそちらが主になってきました。

(委員)

・部会の目的がネットワークづくりだけならネットワークができて一つのまとめとしていいと思うのですが、個人的な意見としては、Bからのステップアップ、就労を失敗して地域にいる人が相談支援に行き着くかなどの乙訓の障がい者就労というのをどこが今後考えていくのかなと思います。

(部会長)

・プロジェクトで課題が出てきた時には庁内実習の課題というところではできるのではと思いますが。

(委員)

・Bで力がある子がそれにいきいたいという時にはプロジェクトがそういう時にはどうしようかなということですか。

(部会長)

・できれば就労部会からは引かせていただいて、プロジェクトとしてやるのであればそちらの方でと思っています。乙訓圏域で部会レベルの就労に向けての話をする場が二つあると、学校としても進路担当が二人しかいないので、軽減も兼ねたいと思います。今日も木田委員は実習期間なので欠席です。庁内実習は残しておきたいと思ひますし、就労交流会も協賛などに自立支援協議会の名前も残しておかない動かない部分もあるのでその連携は残していきたいと思うのですが。

(委員)

・私の記憶では、庁内実習と企業開拓や企業実習に向けてと、もう一つは就A就Bの人たちの賃金アップやその盛り上がりという3本柱だったと思います。各事業所に行って、「どれぐらいの工賃なんですか」などアンケートを実施しましたね。その辺の取り組みはどうなるのか。そこを庁内実習の中に入れるのも無理があるような気がします。地域の福祉就労も盛り上げていこうというのも大事かと思ひます。

(部会長)

・福祉生活介護の事業所にパソコンでのリモートワークでこの先賃金も得たい利用者がいて、それができないかという話が前回の交流会で出ています。具体的に言うと乙訓の里の坂本さんと名刺交換させていただいて次回の交流会に来ていただくことになっています。里としてテレワークのような形での仕事の切り出しができないかという話を商工会や同友会と話を始めているところです。ここではそういう話ができない。企業がないのでそちらでないと話できません。B型からのステップアップにしても企業実習を踏んでいかないと次の場には移っていかないので、福祉事業所が就労交流会に来て企業を紹介させていただいて実習を踏んでいくという流れはできてきているので、そういう形になっていくのではないかと思います。

(委員)

・各事業所の中で仕事を広げたいなどあまりなかったかもしれませんが、そういった時に一事業所では仕事を受けにくいのでネットワークも作れたらいいねという話もあったと思います。企業といくつかの福祉事業所でいっしょに仕事を受けたりなども今後交流会が中心にやっていけそうですか。



(部会長)

・まずは乙障協の動きも必要だと思います。実際に8社回ってこういう場があるという集約をして、その当時はあらぐさが事務局をされていたのでそれをもっていきましたが、食いつきがありませんでした。工賃向上が課題と思って待っているのではなく、「こんなところがありますよ」と紹介した時にこっちに來てもらわないと動かないのでそこに労力がかけられないと思います。

(委員)

・あまりアクションがなかったということですか。

(部会長)

・アクションがなかったですね。

(副部会長)

・今年度に関しては、特に福祉就労の動きが弱く、前年度にしたアンケートの集約で終わっていました。「こういう仕事が事業所でできませんか」という案内は結局交流会を通じてという形になっているところもあります。それを乙訓圏域全部に広げることが交流会でどこまでやり切れるかは課題だと思います。就労交流会も企業実習に特化してしまって福祉就労は置いてけぼりになるので、部会を設置した時の目的を考えるとその部分は整理をしないといけないと思います。部会としては、その部分と庁内実習とが、今年度やり切れなかった次年度の課題の二つであると思うのですが、部会として残していくのかプロジェクトにするのかだと思います。

(部会長)

・乙障協は別組織になるので、連携しましょうと話をしても、乙障協としてそれを課題だと認識されなければ動かない。動かないと福祉からのステップアップはおいていかれる。庁内実習のアピールも兼ねて一度足を運ばせていただいて、まず就労交流会や庁内実習の周知をして、乙訓で利用していこうという動きを作っていただけたら状況もかわってくるように思います。

(副部会長)

・今年度やったことが庁内実習と就労交流会の連携で、そのようにまとめたものを次の部会でお渡しします。次年度の課題として何をもってくるのか。今年度、学習会として取り組みを始めた発達障がいの方の就労の課題についてするのか。部会なのかプロジェクトなのかはさておき、みなさんで協議していかなければならないような大きな柱となるもの、庁内実習以外のところで浮かび上がってきた今年度やり切れなかったこと、Bからのステップアップや、就労でくじけた人が次どうするのか、福祉に戻るのか、次のところにステップアップするのかなども課題であるとは思いますが。

(委員)

・就労で大きく考えた時に、直接企業とやりとりして一般就労できる方に関わる人は半分ぐらいになると思います。あとBもAも就労なので「Bの方が一般企業でこんな活動されてるよ」「こんな福祉との連携をとってるよ」ということをBの方に連携することによって誰かが伝えなければと思います。直接一般企業にBの方は行く機会も少ないので、それを補っていくのが就労部会の役割だと思います。

(副部会長)

・交流会は実習の一般就労に特化してしまうのでBの事業所は大変入りにくいというか難しい面が確かにあって、部会の方が一般就労も福祉就労も入りやすいのはあると思います。それをよせた中で、障がい者の就労について次年度課題としてもっていける議論の中心を何にするのか考えた時に、福祉就労の工

賃アップや一定アンケートの集計をして、こういう課題があって協力してくれそうなところにアンケート返しをして一旦終わっています。

(部会長)

・交流会にはバスハウス、エンデバー、KT ワーカーズも来られています。本会議の案内はピオニーに一斉メールを出していただいで誰でも参加できます。福祉事業所だけが特に行けないというわけではなく、就労に関して、次の段階を踏もうかなと思われている利用者があればその機会に来てください。2か月に1回なので結構な割合で開いています。もし実習したいとなれば実習依頼もできます。あと長岡京市の観光協会が去年から「麒麟がくる」に関連させたて製品があれば売り出すとおっしゃっていました。それも同友会の方が、お菓子作りの受注を京都府から受けてこの1月からタイアップをしています。竹の箸を高野竹工と学校とバスハウスの3者でやりませんかという話をもいただきました。福祉事業所でのそういう新しい仕事の受注もそこに入って、「何かこんなことでできませんか」と発信していただいたら企業からご意見をいただける場になっているので企業と早く直接やりとりができて受注をもらえるところだと思います。

(副部会長)

・交流会に福祉事業所も入っていただいでいるところもあります。来年度、何を中心に話し合うのかを、次回交流会でアンケートを取る予定になっています。そちらで工賃アップやステップアップの話や、部会で以前内職の提供や販売拡大についての意見もあったので企業と直接調整ができればと思います。

(部会長)

・ジョブパークの乙訓担当の方も来られています。乙訓の大きな企業を回って雇用付きの実習ができる場をもっておられる方です。同友会だけではなく大企業との橋渡しもできます。  
・それから京都市の移行支援事業所桂授産園の方も情報がほしいということで何回か来られています。  
・企業と、企業をつなぐジョブパークが来られているので話が早く進み、すぐに実習先についての話が来るので実質的に動いています。

(副部会長)

・今年度のまとめ、次年度への課題については、もう1回部会を開いて最終確認を部会員のみなさまとさせていただきます。文章案を中心になって作り事前配布します。それを見てもらって、部会として盛り込んでほしいことやプロジェクトならこのプロジェクトだけでいいなどの意見を伺って次回回しにさせていただきたいなと思います。

(部会長)

・今年度のまとめと次年度の取り組みについて次回の今年度最後の部会までにメールで配信しますのでそれぞれのご意見いただいで返していただければと思います。

#### 4 その他

※配布資料 『地域ぐるみの「ひきこもり支援」を考える』の紹介

※アイリス創立10周年記念シンポジウムについての紹介

(部会長)

・今日の議題はここまでですが何かご意見あれば、よろしいですか。では、これで終わらせていただきます

す。

・このあと発達障がい者の就労支援ということでアイリスから事例をいただいて、今日はもうひとつ、企業貸し農園というのが東京から始まったのですが、いよいよ乙訓でも声をかけられている企業があるということで、どのようにみなさん考えられるかという学習会をしたいと思います。

・次回部会 3月2日月曜日1時半 保健所講堂にて